



鴨井 久博 先生

### 略歴

1992年 3月 日本歯科大学歯学部 卒業  
 1996年 3月 日本歯科大学歯学部大学院歯学研究科歯科臨床系専攻 修了  
 1997年 1月 日本歯科大学歯学部大学助手 (歯周病学教室)  
 2001年 10月 日本医科大学講師 附属千葉北総病院 歯科部長代理  
 2014年 4月 日本医科大学准教授 千葉北総病院 歯科部長  
 2015年 4月 日本医科大学千葉北総病院 病院教授  
 2019年 4月 日本歯科大学新潟生命歯学部客員教授  
 2019年 6月 日本医科大学成田国際空港クリニック歯科 併任 現在に至る

### 学会

日本歯周病学会, 日本歯科保存学会, 口腔インプラント学会,  
 日本歯科薬物療法学会, 日本口腔衛生学会, 日本口腔ケア学会, 日本臨床腫瘍学会,  
 American Academy of Periodontology

### 専門医・指導医

日本歯周病学会専門医・指導医, 日本歯科保存学会専門医・指導医  
 日本歯周病学会評議委員, 日本歯科保存学会評議委員

## リグロス® (FGF-2) の応用による歯周組織再生療法の評価

日本医科大学千葉北総病院

鴨井 久博

医科の再生医療については、世界で初めてiPS細胞を用いた移植手術が行われるなど、着実に成果を上げています。歯科においても世界で再生療法が歯周治療で応用されるようになって約40年が経過し、国内では、2008年4月から組織誘導再生療法が保険適応されたこともあり、歯周組織再生療法も日常臨床で行うことができる治療法として広く認知されるようになりました。また、2016年9月28日に科研製薬が、FGF-2 (塩基性線維芽細胞増殖因子) の応用による歯周組織再生剤「リグロス® 歯科用液キット 600µg/1200µg」の製造販売承認を取得しました。リグロス® は、遺伝子組み換えヒトFGF-2を有効成分とし、「歯周炎による歯槽骨の欠損」の効能・効果で世界初の歯周組織再生医薬品として登場しました。

歯周治療の理想的な治療目標である正常な歯周組織に再生させる治療としては、現在行われている遮断膜による組織誘導再生療法、エナメルマトリックスタンパク質の応用があり、サイトカイン応用の歯周組織再生剤リグロス® が用いられる事で、歯周組織再生療法の選択肢が広がりました。

そこで今回は、歯周組織再生療法の現状について、販売後、約3年間のリグロス® における実績や報告から使用の適応症となる歯周外科症例について今の評価を考えてみたいと思います。